

「認知症施策のアウトカムとしての認知症のご本人やご家族の視点を重視した評価指標の確立に関する研究」概要

認知症介護研究・研修東京センター 佐藤信人，花田健二，藤生大我，寺崎一永

【認知症のご本人やご家族の生活安寧指標開発経過】

第1回研究委員会 平成30年7月31日

調査研究事業の概要

研究委員；有識者12名

内容；調査目的・調査内容・調査手法の検討

第2回研究委員会 平成30年8月27日

予備調査の概要

内容；予備調査手法・調査内容検討

予備調査票・調査マニュアル検討

第3回研究委員会 平成30年10月2日

予備調査・解析手法の概要

予備調査

内容；生活状態項目26項目について

期間；平成30年10月5日～10月23日

形式；郵送アンケート

対象；200ケース

(認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員)

抽出；47都道府県毎の多段抽出；介護支援専門員

回収率；50% (n=101)

第4回研究委員会 平成30年11月6日

予備調査結果の概要

内容；解析結果の検討

本調査内容・解析手法の検討

本調査

内容；生活状態項目24項目について

期間；平成30年11月12日～12月3日

形式；郵送アンケート

対象；960ケース

(認知症のご本人・ご家族・介護支援専門員)

抽出；47都道府県毎の多段抽出；介護支援専門員

回収率；29% (n=245)

第5回研究委員会 平成30年12月18日

本調査結果の概要

内容；解析結果の検討

生活安寧指標案の検討

第6回研究委員会 (最終) 平成31年1月11日

施策の成果指標としての生活安寧指標案概要

生活安寧状態の検討

認知症のご本人とご家族の意思を基盤とした生活状態項目案を検討・立案

生活安寧状態の定義確定

「生活安定度」・「精神的健康状態」・「生活の質」に寄与することとし生活状態項目を検討

生活状態項目26項目案の確定

予備調査内容・解析手法の確定

生活状態項目26項目の調査

- ・ 「実現したい程度」と「実現している程度」を3者に調査
- ・ 認知症のご本人とご家族回答の信憑性が高いデータを抽出して解析 (n=58)
- ・ 生活状態項目毎の信頼性と妥当性を検証

生活状態項目24項目の確定

- ・ 生活状態項目2項目 (他項目との高い類似性) を削除
- ・ 本調査内容と解析手法の確定

生活状態項目24項目の調査

- ・ 「実現したい程度」を3者に調査
- ・ 認知症のご本人とご家族回答の信憑性が高いデータを抽出して解析 (n=139)
- ・ 生活安寧指標としての構造的側面の信頼性と妥当性を検証

生活安寧指標の検討

下位尺度 (2カテゴリー) 案を検討・立案

生活安寧指標案の確定

下位尺度 (2カテゴリー；13/11項目) の信頼性と妥当性を検証

認知症のご本人やご家族の視点を重視した生活安寧指標
全24項目：下位尺度 (13項目カテゴリー・11項目カテゴリー) の確定

認知症のご本人やご家族の生活安寧指標（生活状態項目24項目）

家の中に落ち着ける居場所がある
家族や親戚、親しい人たちとのつながりが保たれている
部屋になじみのものが置いてある
心地よい部屋で過ごす 例) 色彩、音、装飾、温度、湿度、匂いなど
テレビを見たり新聞を読んだりする
夜ぐっすり眠れる
話を聞いてくれる人がいる
食事がおいしい
お風呂に入る
身だしなみを整える
日中は適切で清潔な服に着替える
健康的な食事ができる
トイレに行く

買い物をする機会がある
自分で使えるお金をもっている
趣味やレクリエーションなどたのしい活動をする 例) 読書、音楽鑑賞、旅行など
いろいろな行事を楽しむ 例) 誕生日、正月、花見、七夕、月見、クリスマスなど
家の外になじみの場所がある
家の周りが片付いている
地域の一員として社会参加する 例) 地域の掃除等
選挙に行くなどの政治活動を行う
家族や周りの人の役に立つことをしている
安全に外出し、帰宅できる
軽い運動をする（散歩を含む）

◆成果

「認知症施策のアウトカムとしての認知症の人ご本人やご家族の視点を重視した評価指標」として「認知症のご本人やご家族の生活安寧指標（2カテゴリー：全24生活状態項目）」を開発し、信頼性と妥当性が担保されていることを検証した。

◆活用手法について

- ・ 認知症施策のアウトカム指標として、自治体によるニーズ調査や地域間の比較などマクロな視点での活用を想定して開発。
- ・ 認知症の人ご本人やご家族の視点から、認知症に罹患しても実現したい生活実態を表現したものであり、生活安寧度の地域内や地域間の実態把握や、不足の項目を明らかにし、充実するための施策形成の一助となりうる。
- ・ 高齢者福祉計画、介護保険事業計画、地域福祉計画、認知症ケアパスの見直し改訂の時期のニーズ調査などに合わせて活用することで、認知症の人ご本人やご家族の視点を重視した具体的な施策案を検討する際の一助となることも期待される。

◆課題

当該指標実用化の意義と活用対象・方法の議論とそれを踏まえた実施・活用上の問題点や課題を明らかにするための研究を2019年度に継続する必要がある。